

刊夕 日九十月六

# 常新日新聞

定価 一部五銭 二部十銭 三部十五銭 四部二十銭 五部二十五銭  
発行所 常新日新聞社 東京市本町三丁目三番地  
電話 六三〇番  
印刷所 常新日新聞社 東京市本町三丁目三番地

## 紅い小鳩 [二]

最近の若い女性の問題

村岡花子

若い娘たちはもつと批判の眼を開かねばならぬのだ。今の教育は、家庭でも学校でもこの方面を閉却してゐるのではないだろうか。映画、歌劇、小説、レヴューと若い人々の感覚を快く刺戟するものばかりが充滿してゐる中で、それらのものに對する批判が少しも興へられない。

「カルメンは永久に自由である」と叫んで死んで行く美しいジプシーの女の『自由』に對するあのがれは、直ちに少女たちの胸の奥の琴線を突く。自由よ、自由よ、愛すべき自由よと叫びつくす若い心に、周囲の人々の訓戒や命令は如何に厭はしく、憎らしく響くことであらう。

華やかなレヴューの舞臺に、甘い戀の場面が展開する。或は奔放奇抜な行爲が大膽に繰返されて觀衆をして痛快を結叫させる。

若い女性の興味は極度に刺戟され、人生は面白く、甘美なお芝居の連続であるかの如き夢がはぐまれて行

く。小説の主人公はうるさい社會の規律などといふものには一顧も興へず、断然、自分の氣儘を通して行く。

大人の頭腦で考へたならば、これら架空の物語や劇は單なる娯樂以外には何ものでもないのだけれども、感傷的な少女たちにはそれが一つ／＼現實のことであ

【朝】味噌汁、さやえんどう、豆腐、小付、やきのり、【晝】オニオンオムレツ、【晩】ビーフステーキ、インビーフ、サラダ、トマト

るか、この如き迫眞力を以て食ひ込んで行くのである。夢は夢を生み、その胸の中には周囲の人々の想像もし得ない突拍子もない行動をはらむことを、我々は知らないのである。

家庭の中でもつと開放的にさまざまな問題について語り合ふのはいいことではないだらうか。良家の父母は子女を映畫館その他の娯樂場へ單獨に出さず、努めて同伴するやうにしてゐるらしいけれども、扱てそれから後で、どれだけその映

畫なり歌劇なりについて子女の批評や印象を聞かうとしてゐるであらうか。自分たちの意見は發表するかも知れない。而もその意見は極めて常識的な、固苦しい意見發表で、青春の情熱や空想や理想については同情のない場合が多い。それを聞いてゐる若い人々は知らず知らず、心では反撥しつゝ外面は沈黙に落ち込んでしまふ。

かゝる現象は屢々多くの家庭で眼にするところである。「宅の娘は何を考へてゐるのか、一向分りませんので困つてしまひます」とか「娘が妙に反抗的で困る」とかいふ母親の嘆は、あまりに親自身が高壓的に自分の意見を子女に押し付けやうとすることに原因してゐることを考へなければならぬ。

或る上流家庭に育つた人がつくづく話した事であるが「私は小さい時、親と一緒に暮らしたといふ記憶を持ちません。成程同じ邸内に住んでゐた事は事實ですが食事は別だし、禮儀はばかしく堅いし、とても親しんで甘えて行くなんて氣持にはなれませんでした」と。餘りに嚴格な家庭に不良の傾向を帯びた娘や息子

が出来るのも、結局は自由を望む青春の激濁さがかこみを破つて、飛び出すわけである。家庭といふものは適度の自由さと心易きがなければとても住みきれぬものではない。自由に思ふことを發表させる。さうして、その發表を充分に聞いた後に、こころにそれを對しての是正すべきものは是正する態度が年長者にあれば、若い人々の誤つた自由觀、幸福觀が飛んでもない禍をかもし出す前にこれを防ぐことが出来ると思ふ。

## 夏は來り

- 本年も清新なキクチの...
- 白靴を 二五〇ヨリ
- 野に山に新製耐久力の...
- ハイキング靴を 七五〇ヨリ
- 婦人洋装にスマートな...
- ハイヒール靴を 七五〇ヨリ

菊地クツカバン店 電話 六五九

## 謹告

代議士佐藤庄太郎君今般萬國議員會議列席の重大使命を帯び渡歐致さる事に相成り候へば些かその行に祝意を表し左記の如く送別の宴を開催申すべく候間多數各位の御賛成御出會を仰ぎ度此の段以紙上謹告仕り候

- 期日 六月二十日 午後一時開會  
會場 平町住吉屋本店  
會費 金一圓也  
發起人 井上 茂作 萩原 義雄  
小野 晋平 金成 通  
田子 健吉 野崎 滿藏  
青沼鋒太郎 安島重三郎  
木村 清治 古川 傳一  
鈴木辰三郎

株式賣買ノ忠實ナル御相談相手トシテ御利用下サイ

株式債券現物賣買

### 丸井株式店

平町田町 七十三  
電話 四六番

### 自轉車は左記

有名車を御撰擇下さい

世界的ニ進出セル

- 宮田ノ自轉車
- 夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
- ゼブラノ自轉車
- 實用經濟車トシテ好評アル
- マーツ號自轉車

宮田代理店 宮田 代理店  
ゼブラ代理店 宮田 代理店  
マーツ代理店 宮田 代理店

エビスヤ商店 電話 六六四

### 不味實

毎度御引立を戴いてゐる藤寅では例年通り冷たい美味しい飲物

アイスクリーム アツキアイス  
ミルクセーキ ソーダ水  
ミツ豆 クリームソーダ  
其他水水各種

相初めました是非夏の夕の御散歩歸へりに御立寄り下さい

平一丁目

迅速 電話 一四一番

### 佐藤代議士 送別會

#### 會場を變更 申込豫定數突破

「何んだ、つて、彼んだ、つて……」の一本槍で飾り氣拔きの我武者羅な世界漫遊を試み、紅毛碧眼の徒輩を煙に巻かふと云ふ怪傑(?)佐藤庄太郎代議士の送別會は明廿日午後一時から住吉屋本店に開れる筈であるが老ひて益々壯んな『われ等の代議士』の行を此際是非共盛大ならしめ度いと申込み引きも切らず此分では到底會員全部を住吉屋本店に收容し切れなくなつたので止むなく會場を平館に変更した由

### 縣下配屬將校の會議警中に開催

#### 會議警中に開催

縣下中等學校配屬將校會議は既記の如く来る廿五、六兩日午前九時より警城中學校に於て泰第二師團長、安藤司令部付少將臨席の下に開催されるが警中、平商よりの提出事項左の如くである  
(警中)中等教員の教練体得強調の件 時局に處し

### 市制財政調査の道草物語(五)

川崎 文治

『主のおそばとこほろぎ橋は、離れともないいつまでも』  
『わすれしやんすな、こほろぎ橋で、二人ちかつた戀の夜を』  
山中温泉の夜は明けた

### 縣下の教練振作に關する縣當局の決意如何

(平商)學校教練査閱の隙は縣官の臨場を希望す銃器私下申請に對しては其希望數に充つる様考慮の件

### 四圓臺 四倉保つ

#### 出廻り最盛

四倉南市場四日目の昨十八日の取引は出廻り最盛期に入り白藪二千四百二十七貫、黃藪二千三百貫、合計二千六百三十貫と激増取引相場は左記の如く白藪の最高は依然四圓臺を保つて居る  
(白藪)最高四圓一錢 最低三圓 剛三圓五十八錢 (黃藪)最高三圓五十一錢 最低三圓 剛三圓四十錢

### 植田市場 昨日取引

#### 高植を示す

既報植田南市場は昨十八日名ありと考へたい。  
く音の頻りなるより此の命

### 勿來取引 矢張高値

#### 勿來取引

植田市場と同時に開場した勿來南市場の初取引は同く白藪のみで六百三十貫、最高が四圓、最低三圓七十錢

### 五學校が 柔劍道の大會を開催

#### 大會を開催

濱三郡内五中等學校(警中、平商、双中、相農、相中)は來る卅日午前九時から双葉中學校に於て劍道及び柔道の大會を開催する

### 伊東知事初巡視 選舉肅正會議にも臨席

#### 選舉肅正會議にも臨席

既報伊藤本縣知事は本月廿四、廿五の兩日初巡視に來郡されるので平土木監督所は管内道路及び橋梁に修繕を行つて居るが廿六日平第三小學校に開かれる選舉肅正に關する濱三郡町村長會議にも臨席する

### 縣下女學校 校務主任會

#### 校務主任會

二兩日午後一時半より警城中學校校務主任會は來る廿一、二兩日午後一時半より警城中

### 篠山校長出福

平第一校長は過般の縣下教育を構へて、あたりを睥睨して居る、市廳舎にしては餘んまり大き過ぎると、仰ぎ見る眼に映じたのは「縣下女學校音楽演奏會」の立看板、即ち此の廳舎が、公會堂を兼ねて居るんだから素晴らしい、竣工後未だ何ヶ月も経たない此の建物の貴重室に通されて、助役や收入役に鹿爪らしく會談中、幽かにピアノの響きが流れ

### 育總集會の決算其の他報告のため今十九日出福した

米	期	價目
新日銀	一	三六〇
新日銀	二	三六〇
新日銀	三	三六〇
新日銀	四	三六〇
新日銀	五	三六〇
新日銀	六	三六〇
新日銀	七	三六〇
新日銀	八	三六〇
新日銀	九	三六〇
新日銀	十	三六〇

### 東京短期(前場)

新東	一	二五〇
新東	二	二五〇
新東	三	二五〇
新東	四	二五〇
新東	五	二五〇
新東	六	二五〇
新東	七	二五〇
新東	八	二五〇
新東	九	二五〇
新東	十	二五〇

### 魚清の謝恩デ

開店七週紀念として來る廿三日(廿三夜様)晚御來店の御客様にゴム風船一人一個づつ差上ますから何卒御立寄り下さい  
平二警察署通り

魚清食堂部 電話六三三番

魚清氷卸部 電話四六七番

四男四郎儀病氣の處藥石無効十八日午前七時死去致候間謹告仕候  
追て葬儀は來る二十一日午後二時自宅出棺照岸寺に於て佛式に依り相替可申候  
昭和十年六月十九日

平町新川町 諸橋國松 外親戚一同

### 川井内科診療所

川井安子

# 家出はしたが 父親に逢ひ度い

## 眼の前に自轉車の誘惑

### 悲しや十三歳の繼子

去る十七日午後六時頃警崎村字藤原地内馬喰坂國道を一人の少年が子供用自轉車を飛ばして来たが駐在巡查の姿を見るや車を投げ出して逃走を企てたので怪しと睨み直に取押へて調べると同人は渡邊村大字上釜戸農猪之松三男熊谷丹三(三)假名で繼母ハル(三)に虐待されて居耐まれず十五日家出

し平町を徘徊中父親戀しさの餘り一度帰宅して父親に一眼逢つてから改めて家出じやうと十七日朝平町から實家へ向ふ際長橋町木炭商佐川朝壽さんの家の前に立て掛けてあつた子供用自轉車を窃取し是に乗つて吾が家に歸る處であつたと判り兩親を呼出して説諭の上引渡した

# 神宮出場を

## 目標とする

### 軟式野球の豫選

#### 来る卅日平町に

##### 出場チームの受付を開始

全日本体育協會並びに日本軟式野球聯盟主催全日本軟式野球大會の石城支部豫選は来る三十日午前八時より平商、警中、平第一の三球場で舉行されることとなつた

日まで平第一小學校篠山廉氏宛にチーム名、所在地、責任者、選手名簿、等を記載の上申込まれたいと尙同豫選の優勝チームは來月七日福島市警グラウンドの縣豫選に本郡を代表して出場更に勝てば神宮球場で舉行の全日本大會へ出場する事となる

# 安全第一

## 工場に宣傳

平署では來月一日の第八回全國工場安全週間には工場法を適用する管内各工場に宣傳ビラ及び産業福利協會

# 健康で元氣な旅

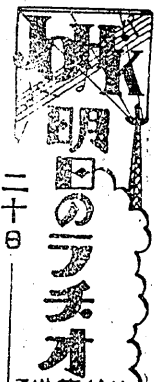
## 阿部政右衛門

拜啓視察に出でより一回の雨にも遇はず毎日快晴なる天候に恵れつゝ愉快なる旅を繼續致居候殊に小生至つて健康にて元氣なるは何よりの幸福に有之候、本日は天ノ橋立を見物の上直に大阪を経て歸宅の途に着く豫定に候(十七日城の崎温泉にて)

# 平第一校

## 父兄懇話

平第一小學校の父兄懇話會は来る廿二日午前八時より開かれるが授業參觀、校長の講話、受持教員との懇談等ある筈で一般父兄の來校を希望すると



今晩の部  
後六、〇〇 子供の時間  
童謡と唱歌「八幡小學校  
々歌」仙臺市八幡小學校  
兒童 齊唱「日光山」仙臺  
市東六番町小學校兒童  
後六、二五 基礎英語講座  
岡倉由三郎  
交通文化の夕〇

明日の部  
前六、三〇 基礎獨語講座  
武内大造  
前七、〇〇 朝の修養「妙  
法蓮華經」山口光園  
前八、〇〇 家庭講座  
「飲料の話」醫學博士有本  
邦太郎  
後八、〇〇 木曜コンサート  
ト 管絃樂 序曲「マドリ  
ツドの夏の夜」外 大阪放  
送交響樂團  
後八、〇〇 小學生の時間  
唱歌「森の鍛冶屋」大阪市  
常盤尋常高等小學校兒童  
後二、四〇 國史「八幡」

まど鳩「安部季雄  
童謡」熊の作つた乗合馬  
車一岸邊福雄  
後六、二五 講演「近東諸  
國に於ける日本商品の進  
出に就て」水野伊太郎  
後七、三〇 講演「歐米各  
國に於ける無線の發達に  
就て」東北帝大教授宇田  
新太郎  
後八、〇〇 義太夫 豊竹  
猿司  
後八、三〇 寄席中繼「漫  
才」足にまかせて「秋山右  
樂 音曲「吹き寄せ」外  
三遊亭圓若

# 接客業の

## 健康診断

### 虎眼百八十一

既報平署では昨十七日午前九時から會議室で平町接客業者のトラホーム及び結核病豫防の爲め健康診断を行ひ午後四時迄に千二百九十名を診察したが百八十一名のトラホーム患者を發見結果は無かつた由

# 豚コレラ

## 豫防注射

郡下の豚コレラ發生は現在迄に未だ十數頭に過ぎないが一昨年の如き三百頭の發生を見た例もあるので平、植田、四倉の三警察署は縣衛生課と協力し左記日割で豫防注射を行ふと

- (六月廿六、廿七、廿八日) 平 小名濱 植田(廿六、廿七)平窪(廿八日)夏井(廿九、卅、七月一日)内郷(廿九、卅日)江名 錦(卅日)渡邊(一、二日)山田

# ギャンク

## 検事局へ

### けふ押送さる

過般の平署のギャンク狩りに檢舉された左記六名は今十九日夫々一件書類と共に送局されたがいづれも頭書の罪名で起訴される模様である

- △詐欺恐喝 蒲生正利(三) 飛田三郎(三)長井七太郎(三)立花美好(八)

# 行倒れの

## 老人急死

### 本籍地へ照會

去る十五日午後六時頃古銀冶町地内に行倒れて居た耶摩郡山都村二ノ六八生れ無職小澤友八(七)は平町役場で行路病人として町立病院に收容手當を加へて居たが十七日午後六時急死したので假埋葬を行ひ本籍地へ照會中

# 盗んだ家が

## 多過ぎて解らぬ

### 平署で餘罪を續々自白

昨報豆腐屋の傍ら千餘圓の空巢覗ひを働いた平窪村大字中平窪字横枕林藤悦(三)は引續き平署で取調中であるが去る十七日赤井村字諏訪農草野林之助方の不在中

# 平町人事

## 出生

- △舊城跡 中澤喜市氏三男 勇三
- △舊城跡 鈴木守男氏三女 登美子
- △回死 亡
- △六人町 小澤友八(七四) さん
- △新川町 諸橋四郎(二五) さん



# 明治太平記

(無断転載 上段及上段)

(作) 寺島樞史

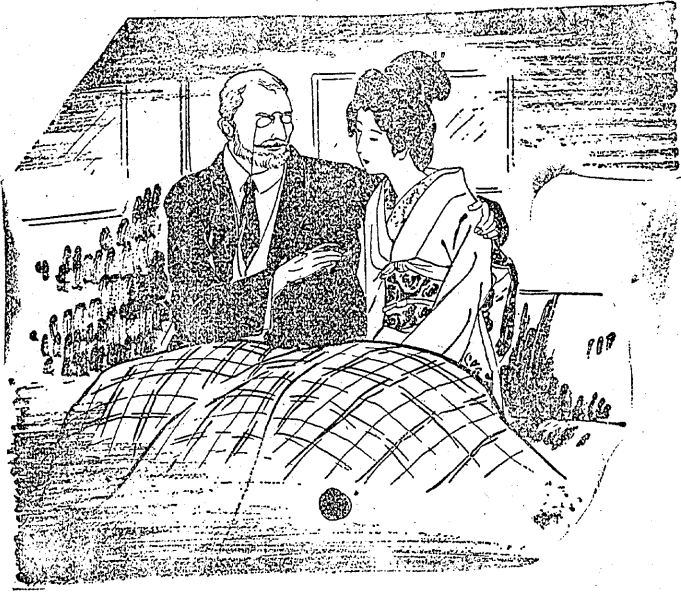
第五百十三回

## 思慕と望郷(六)

「おふくしやん」  
「おふくしやん」とやつて来て、おふくの織手を握つた。  
「あなた、散歩しませんか……」  
「散歩？……よござんすわねえ、ですけど、外は寒うござんせう」  
おふくは、窓のカーテンをおして外をうかがつた。月が出てゐた。紫紺の空がさびざびと晴れてゐた。「馬車の箱の中に、ならんで居りますと、寒いことありません」  
「あのお馬車で、お散歩？それなら、大變よござんすわ」  
「早く仕度をしなさい」  
「はい、あのう旦那様何を着て行きますか」  
おふくは嬉しうな顔をして、パークスに相談をした。  
「やはり、振袖がいいでせう」  
「さうね、こないだ旦那様に造つていたあの振袖にいたしますわ、それに一昨日越後屋から届いた帯をしませうか」

「何んでも、よろしい」  
おふくは振袖に着かへたその間パークスは花を鑑賞するやうな氣でおふくの容姿に見とれて居つた。  
「おふく、あなた、大變美しうか」  
「振袖姿のおふくに、くぐり眼はしかし、射る様に鋭か

おふくの良順は多少不安の氣も起つたが、それを押しかくして、嬉しうに馬車の動揺につれてパークスへ身を寄せた。  
「旦那様、どこまで？」  
「さ、どこといふあて、ありません、おふくしやんあなたの好きなところまででいいか」  
「さうね……いつそ、あてなしに東京をうろつきませうか」  
「それもよいでせう」  
「でも、餘りおそくまでお馬車で歩き廻ると、巡邏がやかましいでせう」  
「なアに、おふくしやん。



つた。  
やがて二人は車中の人となつた。  
二頭仕立の立派なお馬車の箱の中に、ふたりは寄せて腰かけてゐる。  
「パークス奴どこへ連れて出すのだらう！」

心配御無用……日本政府の大官、みんな、わたしに頭あがりません。巡邏も、わたしを恐れて居ります。日本國中、みんな、わたしのわたしの祖國の威力に恐れ居ります」

おふくは、泥棒ながらも其の時民族的反感を胸に、きびしく覺えた。  
「おふくしやん、あなたわたしの事あまり知りませんな」  
パークスは、驚鼻を近づけておきながら、こんな事を云ひ出した。  
「い、え、存じてをりますわ」  
「いや、知りません。わたしの實力、わたしの權力、何も知りません。知りませんから、わたしを……」  
そこでちよいと口ごもつた。  
「本當に、よい月でございませうねえ」  
おふくは、よそ事のようにパークスの情熱に水を仕向けた。

「さよう、月、日本の月も英帝國の月も月には變りありません。同じく目色毛色變つて居りますけど人情に變りありません。英國人が日本婦人を愛すること、一向差支ありません」

店主が	店員
を連れて	行
かれ	る
正シイ	食堂
正シイ	喫茶
正シイ	酒場

平・田町  
レストサロン  
電二五三番

### 耳鼻咽喉科専門

### 大和田醫院

平町南町一六【電話一七〇番】

何となく  
**頭痛で不快の方**  
二三回で不思議に快癒する  
**フタバの磁氣**  
平町中仲町(電一九三番)

### 遊覽團體募集

**日歸ノ部**  
柳居津虚空藏尊(猪苗湖、東山白虎隊廻り)  
出發 六月二十日 午前三時  
會費 往復自動車賃貳圓也  
光(笠間稻荷様廻り、日光六時休憩)

**一泊ノ部**  
出發 六月十六日 午前一時  
會費 往復自動車賃貳圓五十錢

**古峯様參詣**(日光參拜一泊、東京市内各所遊覽)  
出發 六月廿五日  
會費 六月廿四日  
會費 六圓也  
(但シ書食二回宿泊料ヲ含ム)  
(各車共定員二十二名、定員未滿ノ節ハ勝手手ラ)  
(延期スル事モアリマス)  
其他御希望ノ各種團體ニモ應ジマス

**尼子自動車商會 遊覽部**  
電話六四〇番

### 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄  
平町田町 電話五二三番

内科小兒科  
耳鼻咽喉科  
外科花柳病科  
レントゲン科

産科 院長 木村寅次郎  
婦人科 醫學博士 内木宗八  
外科 藥劑師 立番彌一  
藥局

平町新川町十九  
**木村病院**  
病室完備 入院隨意  
電話一六四番